

なじらね.jp

なじらね

秋

どっとじゅーピー

平成 26 (2014) 年 9 月 30 日 (火) 発行 - 第 12 号 -



- 【発行人】「にいがた青年海外協力隊を育てる会」 会長 平山 征夫 / 事務局長 横山 容司郎
The Supporting Organization of J.O.C.V. NIIGATA
【事務局】〒950-2012 新潟県新潟市西区小針台1-15 株式会社 アルファブライト 内
Tel. 025-234-1500, Fax. 025-234-1002, E-mail n-sodaterukai@alpha-bright.co.jp
URL http://n-sojocv-najirane.com
【題 字】藤田 美枝子 (※「なじらね」とは、新潟弁で「元気ですか?」の意味)
【編集人】広報文化専門委員会 山田 規央

- NAJIRANE Headlines -

- 【巻頭言】「なじらね.jp」第12号の発行に寄せて 1
【壺】平成26年度(第6回)総会の開催報告 2 - 3
【貳】ドミニカ共和国初の療育施設に和製玩具が届きました! 3
【参】本県出身JICAボランティアによる近況報告 4 - 5
【四】本県出身のJICAボランティア(JV & SV)が任国へ赴任!
(平成25年度4次隊, 平成26年度1次隊) 6
【五】「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」が行なわれました! . . 7
Information, 壮行会&慰労会, 広告, 編集後記 8

にいがた青年海外協力隊を育てる会

検索

公式ホームページ随時更新中!

【巻頭言】 「なじらね.jp」第12号の発行に寄せて
— エクアドル球児よ、また会える、また会おう! —

にいがた青年海外協力隊を育てる会 会員、隊員留守家族

齋藤 修 (さいとう おさむ)



皆様こんにちは、平成24年度3次隊・エクアドル共和国野球指導員・齋藤勇太の父です。
「行動しなければ始まらない。」こんな言葉に凝縮された「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」だった様に思えます。期待と不安の「本プロジェクト」の始まりでしたが、来県二日目に新潟東リトルシニアリーグ主催のウェルカムパーティーで、自己紹介時に片言の日本語が飛び出した時は、驚くとともに「学習してきたんだな」と感心致しました。また、私が「勇太のお父さん」と紹介されると即座に「オト・ウ・サン」と呼び、何と吸収力の早い子供達だと思いました。結局私は遠征期間中こう呼ばれてました。自宅での夕食会では、地元の有志の方の協力も頂いて無事準備でき、おもてなしが出来たのかな~と思っております。食後のコミュニケーションは、私が野球の審判をやっておりますので、球審の「ストライクジェスチャー」「退場コール・ジェスチャー」で、盛り上がりました。言葉・会話が出来なくとも「フレンド・友達」になったひと時でした。文化視察の「円周寺」訪問時では、墓石前での「記念

撮影」、本堂での「お経拝聴体験」「正座講習会」彼らの行動には大変驚くとともに異種文化へ関心の高さを感じました。

彼等から学んだこと、彼等が残してくれたもの、それは、新たな出会い・人のつながり・会話が出来なくとも「コミュニケーション」はとれる。そして、人の「和」があれば目標から現実が見えてくる。そんなことだった様に思います。私にとっても新鮮で、大変有意義な期間となりました。

最後になりましたが、本プロジェクトの企画・実施にあたり、ご協力・ご賛同頂いた皆様方に、この場をお借り致しまして感謝申し上げます。大変お世話になりました。彼らにとっても今回の遠征は、目標ではなく通過点かと思います。

¡ V i t o r j a p o n é s d e E c u a d o r ! ! ¡ G r a c i a s ! !

「にいがた青年海外協力隊を育てる会」の益々のご活躍を祈願申し上げます。



去る5月31日（土）15時より新潟会館において、「にいがた青年海外協力隊を育てる会」第6回総会が開催されました。議事の内容は昨年度の活動報告及び決算報告、今年度の活動計画と予算を審議して頂きました。本年度はいよいよ8月にエクアドルから野球チームが新潟に来るということで、この事業に対し、当会としても全面的に支援することを総会の場で確認致しました。昨年から実施されている上越地域での青年海外協力隊周知を促進するための活動資金の補助。そして引き続きライオンズクラブ、ロータリークラブ、ソロプチミスト等の経営者の組織の例会でのアピールを実施し、県内の企業の経営者に協力隊のことをもっと理解して頂けるように活動したいと思います。

第2部は在エクアドルの齋藤勇太隊員とスカイプトークを行ないました。「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」の意気込みと現状、そしてエクアドルの生活について話して頂きました。

会場がエクアドル・モードたっぷりになったところで、第3部の講演会は在日エクアドル共和国大使館（東京都港区西麻布）よりダヴィッド・ヴィジャゴメス三等書記官を招聘し、「エクアドル共和国と日本」と題して同国の観光や文化などの魅力を紹介して頂きました。この第3部および4部については、事前に新聞紙上でも案内をさせて頂いたおかげで、関係者を含め合計50名とこれまでにない多くの方々にご参加頂きました。新潟とエクアドルは交流の歴史がなく、エクアドルのことをよく知っている人は我々関係者の間でも希少です。今回大使館に講演を依頼した目的は、野球プロジェクトに協力していく上で、「まず相手の国のことを知る」ことでした。通訳は「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」の吉岡大輔氏（エクアドルOB/野球）にして頂き、最後はこのプロジェクトの事務局メンバーにより意気込みを披露して頂き、それに応えて、出席者の皆様から多くの募金を頂きました（Tシャツ代金分2,600円を含め、合計102,000円）。本当にありがとうございました。

第4部は恒例のJICAとの共催で帰国隊員報告会を開催しました。今回は、シニア海外ボランティアOBの石垣稔さん（H23-2/フィジー共和国/水産物加工）と青年海外協力隊OGの長谷川真知さん（H23-2/インドネシア共和国/栄養士）の2人から現地での活動報告をして頂きました。

第5部は講演会の講師のダヴィッド氏を交え、新潟県青年海外協力協会との共催で懇親会を開催しました。野球関係者様とも親睦を図ることができ、この日の目的の一つであった「野球プロジェクト成功への気運を高める」ことができたと思われます。

最後に、今後もライオンズクラブやロータリークラブの例会に参加して講演をするにあたり、是非クラブをご紹介して頂きたいです。更に、広告協賛社を募集しています。1年間、会報紙「なじらね.jp」とHPに広告を掲載し、**たったの1万円**です。「なじらね.jp」はHP上でもバックナンバーを閲覧可能となっておりますのでご参考して下さい。

（文：横山 容司郎）



スカイプトーク！新潟⇄グアヤキル



客席の齋藤さんと両親もご登場



ダヴィッド氏の講演（吉岡さん通訳）



大勢の人々が興味津々



エクアドルチームを新潟へ誘致する会



長谷川真知さん



【弐】 ドミニカ共和国初の療育施設に和製玩具が届きました！



日本のODAで建設された同国初の自閉症児療育センター（通称“tina”）が今年、長岡市出身の青年海外協力隊員・林亜佑美さん（平成24年度4次隊／作業療法士）の配属先であるサンチアゴのNGOシバオ・リハビリテーション後援会に併設され、開所しました。

開所に向けた林さんの要請に基づいて昨年集めた玩具を5箱に分け、今年1月上旬に発送しました（一部、状態のよくないものは除外させて頂きました）。

船に揺られること約3ヵ月、4月6日に現地JICA事務所に4箱が到着、4月22日にセンターに届きました。

もう1箱がはぐれて暫く行方不明になっていましたが、その後施設に届きました。届いた玩具は、自閉症児等の子どもたちの療育活動に役立てられています。施設と林さんから感謝状と写真が送られてきましたので、ご紹介致します。

ご協力を頂きました皆様に、心より御礼を申し上げます。（※施設長様からの感謝状は当会HPで閲覧できます）

（文：山田 規央）

にいがた青年海外協力隊を育てる会の皆様、ご協力頂いた皆様

皆様のご協力のおかげで、ここドミニカ共和国の自閉症児施設（別称：tina）にたくさんのおもちゃを届けることができました。子ども達はもちろんですが、おもちゃを療育で使うスタッフが大変喜んでくれています。日本の伝統的なおもちゃは遊び方がわからず戸惑っていましたが、遊び方を教えると喜んで遊んでくれました。また、所属先内の支部にもおもちゃを分け、数多くの子ども達の療育に役立てています。

現在、ドミニカ共和国には自閉症の為の療育施設がなく、私の所属先が唯一の専門の施設です。そのため、なぜ療育におもちゃが必要なのか、遊びの中に成長過程がある、など現地スタッフ、両親へ指導している最中です。その中、感情の起伏が激しかった自閉症の子供たちが療育をすすめていくにつれ、感情をコントロールし、おもちゃで楽しむことを学んでくれる姿を見ると、皆様への感謝と共に、とても嬉しい気持ちになります。

子ども達の好奇心を引き出すことが私たち療法士の仕事です。この価値あるおもちゃと共に子ども達の眠る好奇心を引き出し、遊びの楽しさを療育していきたいと思います。今後も暖かく見守って頂けたら幸いです。

今回、おもちゃの寄付に協力して頂いた皆様、多くの時間を割き手続きや輸送準備などを行って頂いた「にいがた青年海外協力隊を育てる会」事務局の皆様、応援して下さいました皆様に感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。

平成26年5月

林 亜佑美



坪谷 純希 Mr. Junki Tsuboya, JV
(平成25年度2次隊 / ペルー共和国 / コミュニティ開発)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところですか？

ペルーの海岸沿いは都市が多く発展が進んでおり、反対に内陸のアマゾン側はジャングルのような場所。そしてその真ん中に位置する任地は、アンデス民族の住む3000m近い山脈の高地。任国ペルーはまるで地球の縮図のような、気候や文化、経済的な差が非常に大きな場所です。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子ですか？

任地サンミゲル郡は非常に穏やかで小さな町です。住民の多くが農業を営んでおり、乳牛飼育、ジャガイモやトウモロコシ、エンドウマメの栽培を行っています。山脈の急斜面で農作業をする現地の人々の体力にはとてももかないません。

Q3;あなたはどんな活動をしていますか？

主に3つのことを行っています。1つ目は、野菜摂取の習慣があまりない任地での、学校菜園を通じた子供と親への野菜摂取習慣化活動。2つ目は、農民グループへの改良牧草・灌漑施設導入などの収入向上支援。そして3つ目は、町で出る生ごみのコンポスト化・再利用化です。

Q4;これまでに嬉しかったこと、辛かったことは？

活動とは関係ありませんが、私は兄弟がいないのですが、任地のホームステイ先の1歳の女の子が、最近では実の妹？（もしくは娘？）のようで、今では歩くことを覚え、家に帰ると、毎日私の足にしがみついてくるのが嬉しくて仕方ありません。笑

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

10校以上の学校への野菜菜園導入、また農民グループに対し、乾季に灌水量を減らせる、日本のプラスチックマルチを使用した作物栽培の紹介や普及を行い、現地の人々の栄養改善や収入向上の役に立ちたいと思います。あと1年ちょっと、1日1日を大切にしながら、今ここからできることを頑張りたいです！



Republic of Peru



五十嵐 とわ Ms. Towa Igarashi, JV (OV)
(平成23年度4次隊 / モザンビーク共和国 / 青少年活動)



Q1;任国や任地はあなたにとってどんなところでしたか？

任国モザンビークは、私にとって、素晴らしい仲間とたくさん出逢えた場所でした。任地ではいつも、子どもが家の門を叩いて遊びにきてくれたり、同僚がご飯に誘ってくれ、モザンビークの文化を教えてください。彼らは皆、私にとっての先生でした。

Q2;現地の人々の生活状況はどんな様子でしたか？

モザンビークの大部分の地域では、自給自足の生活を行っています。現地の人々の暮らしは決して豊かではなかったですが、家族や同僚を思いやる気持ちはとても豊かでした。子どもたちが家事を手伝う、近所の人たちが声をかけあうといった姿をよく見かけました。家族や近所の人たち、同僚との時間を大事にし、互いに見守りあって生活していました。

Q3;あなたはどんな活動をしていましたか？

私は、首都のマプトから車で1時間くらいの地域にある小学校で、音楽を教えていました。音符や音階について、リズムをたたいたり歌ったりして教えていました。鍵盤ハーモニカを使って、アフリカで有名な曲の練習もしました。学期末や年度末は、同僚と一緒にテストの採点や成績入力等の手伝いをしました。同僚の教員を対象に音楽についての勉強会を実施したこともありました。

Q4;任期中、嬉しかったこと、辛かったことは？

うれしかったことは、休み時間に子どもたちが、授業中に私の教えた歌を口ずさんでいたことです。授業中も休み時間も、子どもたちは元気いっぱいで瞳がキラキラしていて、エネルギーにあふれていました。「オハヨウ、トフ センセイ！」「コンニチハ！」と日本語で挨拶してくれる子どもたちや同僚も多かったです。モザンビークを離れる際「わは私たちにとって、大切な仲間だよ。子どもたちも僕達も、これからずっとあなたから色々なことを学びたかった」と同僚に言われたことも、うれしく、胸が熱くなった出来事です。現地の方々に、大きく心に残る「何か」を教えることができたわけではありません。「教える」よりも「教わる」ことのほうがはるかに多かった2年間でしたが、多くの人達に囲まれ、支えられて過ごせたことは、私にとっての宝物です。辛かったことは、ことばの壁です。なかなか公用語であるポルトガル語が上達せず、普段の会話や会議のときに、相手の話していることを全部分からず悔しくなることがよくありました。

Q5;今後の予定や抱負を教えてください。

現在は「言語聴覚士」という資格を取得するために、都内の専門学校に通っています。学校の勉強は想像以上に辛いですが...将来、専門的な知識をもってことばの発達の支援をする仕事に就けるよう、励んでいきたいと思います。言語聴覚士として、いつかモザンビークの方々に恩返しをすること..これがいまの私の夢です！



Republic of Mozambique

【さまざまな生活文化ルポ】第8弾

任国の“お薬事情”



現地リポーター：伊藤 真由美, JV
平成25年度2次隊
東ティモール民主共和国
薬剤師



東ティモールには製薬会社がなく薬は全て輸入、またその多くはジェネリック医薬品に頼っています。薬の輸入も国立の医療機関に供給する分の多くは政府が輸入しています。私の活動先である国立病院の薬の発注は月1回です。日本の医療機関ではほぼ毎日発注しますので、とても少なく感じますが、他の県では3か月に1回と更に少ないです。その上、月1回発注したとしても、薬が納品されるのは2か月後です。しかも納品される薬も、発注した薬ではないものが届くこともよくあります。政府の輸入もうまくいっておらず薬の欠品、期限切れも多いです。今政府の薬剤倉庫には必要な薬の在庫が少ない、または欠品しており、あまり必要のないものも多く在庫されているそうです。私は首都にいて政府の倉庫が近く、欠品率は度々そこに行って持ってくるができますし、薬の卸業者もあるのでそこから薬を買うこともできるのでまだましです。しかし他県はそういう事も出来ず薬不足にかなり困っているそうです。

この国ではビタミンB群がミックスされている薬、例えばアリナミンの様な薬が老若男女問わず多く処方されています。ビタミンB群は市販もたくさんされており、日常的に使用されているのではないかと思います。ビタミンB群の使用が多い理由は、この国の食事情が悪いこと、国立病院では診察、薬剤などにお金がかからないことなどが挙げられます。食事に関して補足しますと、この国の主食は日本と同じく米で、多くの人は取りあえずエネルギーになる米をたくさん食べ、野菜や肉といったおかずを食べる意識に乏しいです。その一因として、この国の物価が高い(野菜の値段は日本とほぼ同じ)にもかかわらず各々の所得が少ないため、一般庶民の手には届き辛いということもあるのかもしれませんが、とはいえ、食事で栄養をバランスよく摂取するというより、薬に頼ってしまっていることが、この国の問題点の一つだと思います。

治療は民間療法に頼っていることも多く、捻挫等したときは炎症を抑えるためにパパイアの葉っぱをすりつぶして患部に貼り付けたりするそうです。また、マラリアやデング熱予防として、蚊に刺されないように、ニガウリやパパイアの葉など苦い物を食べるといいともいわれています。そしてなかには、コーラにマラリアを防ぐ成分が入っているからマラリア予防のためにコーラを飲むといいなんて言う人もいます。

The Democratic Republic of Timor-Leste



【四】 本県出身のJICAボランティアが任国へ赴任！ (平成25年度4次隊、平成26年度1次隊)

本県出身の青年海外協力隊(JV)・シニア海外ボランティア(SV)の平成25年度4次隊(H25-4)新隊員1人(JV 1人+SV 0人)が平成26年3月下旬に、平成26年度1次隊(H26-1)新隊員9人(JV 6人+SV 3人)が平成26年6月下旬にそれぞれの任国へと出発しました。新隊員は訓練所での約70日間の派遣前訓練終了後に本県に帰郷し、それぞれ3月18日、6月23日に新潟県庁および新潟県国際交流協会に表敬訪問を行ない、両日共に当会からは横山事務局長が同伴致しました。これに併せ、直近に帰国していた本県出身隊員も同行し、帰国報告を行ないました。

また、毎回恒例の新隊員壮行会&帰国隊員慰労会を表敬訪問日の夜に新潟県青年海外協力協会(JOCA新潟)と共催で実施しました。当会としては、任国で活躍する本県出身隊員の活動を地域ぐるみでサポートしていけるように取り組んでいきます。表敬訪問に参加した各隊員を紹介します。

新隊員 (H25-4)	任国	職種
JV ①阿部 文絵 さん	ベナン共和国	看護師

①ベナンの女性が安全に出産でき、助かる病気のためにひとりでも多くの赤ちゃんが命を落とすことが無いよう、協力していきたい。

帰国隊員 (3月帰国)

JV : H23-2・中山 博之 さん(ウガンダ共和国／小学校教諭)

H23-3・小西 晴香 さん(ネパール連邦民主共和国／野菜栽培)



新隊員 (H26-1)	任国	職種
JV ①大井 麻耶加 さん	ホンジュラス共和国	保健師
②佐藤 晶子 さん	エチオピア連邦民主共和国	幼児教育
③佐藤 麻美 さん	マラウィ共和国	公衆衛生
④外山 大 さん	スリランカ民主社会主義共和国	コミュニティ開発
⑤宮 隆彰 さん	エクアドル共和国	環境教育
⑥若林 彰 さん	ジャマイカ	コミュニティ開発
SV ⑦石垣 稔 さん	フィジー共和国	水産物加工
⑧小林 昭仁 さん	ブラジル連邦共和国	野球
⑨横山 勉 さん	ボリビア多民族国	高齢者介護

①日本のいいところを伝えホンジュラスのいいところをたくさん持ち帰ってきたい。

②“遊びは学び”を現地の方とともに考え上げたい。

③2年後、健康に無事に帰国したいです。

④“Warm Heart & Cool Head”の心で頑張ってきます。

⑤できることを精一杯やってきたい。

⑥自分ができる範囲で精一杯現地の人たちのために頑張ってきたい。

⑧高齢者福祉の土台作りをしたい。



地図と国旗は「世界地図・世界の国旗」HPより引用 (<http://www.abysse.co.jp/world/index.html>)

(文 : 山田 規央 / 写真 : 横山 容司郎)



【五】「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」が行われました！



新潟市出身の青年海外協力隊・齋藤勇太さん(平成24年度3次隊/野球)がエクアドル共和国・グアヤキル市で野球指導をしている青少年らが新潟および東京に遠征するプロジェクトが8月20日～9月1日の13日間行われ、無事に終了しました。遠征メンバーは、齋藤さんが指導している13～15歳のエクアドル人選手12人とその引率者3人の計15人。期間中、齋藤さんに加え、過去に同じ任地で野球指導経験のある甲斐俊行さん(神奈川県在住)の同行サポートを得られたこともあり、天候不順はありましたが、ほぼ予定していたスケジュール通りに全日程を無事に進めることが出来ました。

当会はこれまで「エクアドルチームを新潟に誘致する会」(代表 清野友二)とともに、準備段階よりこのプロジェクトの成功に向けて全面的に協力してきました。会員の皆様にもご案内させて頂いた協賛金の募金については、同会によれば国内とエクアドルを合わせて、当初目標としていた300万円を超える金額が集まりました。これは遠征メンバーの渡航費や滞在諸費に有効に活用させて頂いたとのことでした。

滞在期間中、練習や交流試合など野球を中心とした活動が多くを占めた一方で、学校訪問、ホームステイ、歓送迎会、観光など、国際交流も充実した日々となったようです。エクアドルのメンバーのみならず、受け入れ側関係者の皆様にとっても楽しい思い出となり、新たな絆が構築できたのではないかと思います。改めて、ご指導ご支援頂いたすべての皆様に心からの御礼を申し上げます。

尚、このプロジェクト実施の詳細は、「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」のホームページおよびfacebookで閲覧できますので、併せてご覧下さい。

(文：山田 規央 / 写真：齋藤 勇太)

【エクアドル野球チーム活動内容】

- 20日(水) 由:新潟到着
- 21日(木) 午前:体調調整・東京学館新潟高校様練習見学
午後:ハードオフエコスタジアム見学・練習
由:新潟東リトルシニア様による歓迎会
- 22日(金) 午前:新潟商業高校様野球教室・授業見学
午後:アルビレックス新潟BC様試合観戦
- 23日(土) 午前:新潟医療福祉大学様との合同練習
午後:ホームステイ受入先へ移動
- 24日(日) 午前:各ホームステイ先にて活動
午後:新潟パワーズ様との交流試合
近藤野球塾様との交流試合
- 25日(月) 午前:新潟東シニア様との合同練習
午後:新潟東シニア様との交流試合
由:新潟ロータリークラブ様による歓迎会
- 26日(火) 午前:アルビレックス新潟BC様による野球教室
午後:中学生合同チームとの交流試合
- 27日(水) 午前:円周寺見学
午後:新潟市内観光
由:にいがた青年海外協力隊を育てる会様による歓送迎会
- 28日(木) 午前:新潟から関東に向けて移動
午後:在京エクアドル大使館様訪問
株式会社DeNA様訪問
日本体育大学宿泊寮到着
- 29日(金) 午前:日本体育大学施設・授業・部活見学
午後:日本体育大学野球部様OP戦見学
日本体育大学様との合同練習
- 30日(土) 午前:瀬谷シニア様との交流試合
午後:瀬谷シニア様との交流試合
- 31日(日) 午前:横浜市内観光
午後:横浜DeNAベイスターズ様練習見学
由:横浜対巨人試合観戦
- 1日(月) 午前:成田空港に向けて出発
午後:エクアドルに向けて出発

(「エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト」HPより転載)

にいがた青年海外協力隊を育てる会の皆様

8月20日から9月1日まで行なわれたエクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクトですが、皆さまのおかげで無事終了することが出来ました。日本時間の2日夕方、参加者全員無事にエクアドルに戻ってまいりました。

昨年10月、貴団体の理事会にて初めてお伝えさせていただいた本企画。何の保証もない準備段階から先日遠征が終了するまでの約10カ月間、根気強く指導とご支援いただいたことにただただ感謝いたします。とびぬけて明るくマイペースな人が多いラテン系のエクアドル人。今回の遠征は彼らにとって一生の宝になったことは間違いないですが、同じように関わった日本人の方にも何らかの思い出になったのであれば嬉しい限りです。

私のエクアドルでの生活も残り4カ月となりました。まだまだ上手い出来ないことも多いですが、この遠征の経験と喜びを胸に選手と共に私自身が成長できるよう精進いたします。

改めてこの度はプロジェクト実行にあたりご尽力いただき誠にありがとうございました。

今後ともよろしくお願いいたします。

平成26年9月6日

齋藤 勇太



エクアドル野球チーム新潟遠征プロジェクト

検索

(<http://ecuador-yakyu.digi2.jp/>)

県北からも、青年海外協力隊を
応援しています！

ケーブル・ハーネス加工、電装品・制御盤の組立

株式会社 興栄電機
KOUEI Electric Co., Ltd.

〒959-3121

新潟県村上市佐々木577

Tel. 0254-62-5653, Fax. 0254-62-5650

URL <http://www.koueielectric.jp>

電気が使える「あたりまえ」私たちが支えます。
電気工事、土木工事、とび土工、機械器具設置、
消防設備工事

胎内電建工業株式会社

〒959-2657

新潟県胎内市江上966

Tel. 0254-43-5345, Fax. 0254-43-5389

URL <http://tainaidenken.com>

私達は協力隊応援団です！
果物のことは大野青果に！



新潟市中央卸売市場

大野青果 株式会社

代表取締役 大野 修

〒950-0114

新潟県新潟市江南区茗荷谷711

Tel. 025-257-6220, Fax. 025-257-6219

- INFORMATION -

1. 平成26年度JICAボランティア秋募集のご案内

平成26年10月1日(水)～11月4日(火)の期間、青年海外協力隊(20-39歳)・シニア海外ボランティア(40-69歳)の志願者の募集が行われます。応募に関する詳細は、下記へご連絡またはJICA公式HPでご確認下さい。 → <http://www.jica.go.jp>

【お問い合わせ】 JICA新潟デスク・本田さん Tel. 025-290-5650 / Fax. 025-249-8122

2. 平成26年度JICAボランティア家族連絡会のご案内

日時: 平成26年11月1日(土), 13:00～(予定)

会場: 新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス 8階セミナー室 →

(新潟市中央区上大川前通7番町1169 Tel.025-227-7111)

内容: JICAボランティア事業について、帰国隊員報告会、OVと留守家族の懇談
懇親会(17:30～, 1階ユーアンドアイにて, 4,000円) ※お誘い合わせ可。

【お問い合わせ】 当会事務局まで(会員には後日ご案内を郵送)

3. 2015年版カレンダー販売のご案内

来年のカレンダーを販売いたしますので、購入後希望の方は当会事務局までご連絡をお願いします(下記参照)。



<http://www.nuis.ac.jp/pub/>

新潟県から派遣される新隊員の壮行会および新潟に帰国した隊員の慰労会は年4回(3月, 6月, 9月, 12月)開催。案内はMLで配信!



2014/03/18



2014/06/23

(写真: 横山 容司郎)

協 大 賛 募 広 集 告

私達は新潟から青年海外協力隊を
応援しています!
金属加工のことならABCにお任せ下さい

相場産業株式会社



〒955-0814

新潟県三条市金子新田1691-5

Tel. 0256-35-7460, Fax. 0256-35-7462

URL <http://www.abc-tool.co.jp>

壊れた自転車は、電話一本でOK!
出張修理専門
(新潟駅南地区限定)

動く自転車屋

森田 敏明

〒950-0941

新潟県新潟市中央区女池7-10-3

Mobile 090-9009-4709

URL <http://ugoku-jitensyaya.com>



感動と夢、そして感謝



21世紀の生涯学習を推進する

株式会社アルファブライト

〒950-2012

新潟県新潟市西区小針台1-15

Tel. 025-234-1000, Fax. 025-234-1002

URL <http://alpha-bright.co.jp>

青年海外協力隊サポーター

業務用食器・厨房用品・贈答用品



〒954-0046

新潟県見附市双葉町2-4

Tel. 0258-62-1265, Fax. 0258-62-7078

世界にはばたこう、日本の心!

そやま接骨院

院長 楚山 恭男

〒940-1165

新潟県長岡市水梨町1106-15

Tel. & Fax. 0258-22-3654

静かな森と美しい庭園

かん すい ろう

新潟五頭温泉郷
村杉温泉

環翠楼

〒959-1928

新潟県阿賀野市村杉温泉

Tel. 0250-66-2131

Fax. 0250-66-2553

URL <http://kansuirou.jp>



2015年版カレンダーを販売します!



●仕様: A4版フルカラー14頁, 壁掛け型

●価格(単価): 700円, 3部以上で500円

※送料は当会負担

●購入方法: 当会までお申し込み頂くか、
直接お買い求めに来て頂きます。

詳しくは事務局(担当 渡辺)までEメール
か電話にてご連絡下さい。

年2回発行している本紙ですが、毎号様々な
方々にご寄稿頂いています。それぞれの想い
を尊重するため、ご入稿にあたってテーマや字
数、写真については自由度を担保し、多くの
方々に読み易い様に編集しています。時折刷
り上がりりが読みにくいこともあります。今後とも
ご指導ご協力の程お願いします。(พรินท์)